

2 地 形 古くから利根川の乱流の最も甚しい地帯で、自然堤防、河畔砂丘が存在し、一様な平坦でなく、高い部分を畑・宅地に使い、湿地を水田等に利用してきた。会の川流域は、川俣、新郷、岩瀬、須影の河畔砂丘が存在していた。

しかし、昭和30年代より土地改良事業、区画整理事業により整備され、栗北の穀倉地帯・居住地として用水路、排水路が縦横に走り、往還地が良い地形をなしている。